

2. 火山の概況

(平成17年3月31日～平成17年4月6日)

雌阿寒岳、十勝岳及び樽前山では、噴煙の状況に変化はなく、火口の高温状態が続いていたと推定される。

浅間山では火映が観測された。火山活動度レベル(以下レベルと記載)は3。

三宅島では噴煙活動が継続し、多量の火山ガスの放出が続いた。

阿蘇山では熱的な活動のやや活発な状態が続いた。レベルは2。

霧島山では御鉢の噴気活動がやや活発であった。御鉢のレベルは2、新燃岳のレベルは1。

諏訪之瀬島では噴火があった。レベルは3。



図1 各火山の今期間の火山活動度レベル及び記事を掲載した火山(火山名に下線)

号	対象期間	雌阿寒岳	十勝岳	樽前山	那須岳	浅間山	三宅島	福徳岡ノ場	阿蘇山	霧島山	桜島	薩摩硫黄島	口永良部島	諏訪之瀬島	号	吾妻山	草津白根山	浅間山	伊豆大島	九重山	阿蘇山	雲仙岳	霧島山(新燃岳)	霧島山(御鉢)	桜島	薩摩硫黄島	口永良部島	諏訪之瀬島
14	3/31-4/6	●	●	●	◇	●	●		●	●	◇	◇	◆	▲	14	①	①	③	①	①	②	①	①	②	②	②	②	③
13	3/24-3/30	●	●	●		●	●		●	◆	◇	◇	●	◆	13	①	①	③	①	①	②	①	①	②	②	②	②	③
12	3/17-3/23	●	●	●		●	●		●	●	◇	◇	●	▲	12	①	①	③	①	①	②	①	①	②	②	②	②	③
11	3/10-3/16	●	●	●		●	●		●	●	◇	◇	●	▲	11	①	①	③	①	①	②	①	①	②	②	②	②	③
10	3/3-3/9	●	●	●		●	●	●	●	●	◇	◇	●	▲	10	①	①	③	①	①	②	①	①	②	②	②	②	③

表1 最近1か月に記事を掲載した火山(左)及び各火山のレベル

注1 記号の意味

- ▲：噴火した火山 ●：活動が活発な状態にあるか、もしくは観測データ等に変化があった火山
- ◆：前期間まで▲や●で掲載し、その後の状況等を掲載した火山 ◇：その他記事を掲載した火山
- ：記事を掲載していないレベル対象火山 ①②等の丸付き数字：火山活動度レベル

注2 記事は、▲、●及び◆(注1参照)に該当する火山及びレベル2以上の火山について掲載する。その他の火山については、特記事項のある場合に掲載する。

注3 本文の火山名の後ろの[噴煙・噴気・地震・微動・空振・地殻変動・熱・火山ガス等]は、変化があった観測データ項目を示す。

● 雌阿寒岳 [熱]

ポンマチネシリ 96-1 火口の噴煙の状況に変化はなく、高温の状態が続いていたと推定される。

● 十勝岳 [噴煙・熱]

62-2 火口の噴煙活動は活発な状態が続いており、高温の状態が続いていたと推定される。遠望カメラによる噴煙の高さは火口縁上おおむね 200mで推移した。

● 樽前山 [熱]

A火口およびB噴気孔群の噴煙の状況に変化はなく、高温の状態が続いていたと推定される。

◇ 那須岳 [地震]

4月3日17時41分に山頂の北北東約10kmでM(マグニチュード)4.5(暫定)の地震(最大震度3)が発生し、その後、その周辺で余震と思われる地震が多発した。震源は山体から離れており、火山活動と直接の関連はないと考えられる。

● 浅間山 [噴煙・火映・地震・微動] レベル3 (山頂火口で小～中噴火の可能性)

今期間、噴火は観測されなかった。

白色噴煙は山頂火口より連続して噴出しており、最高で火口縁上約400mまで上がった。また、微弱な火映がほぼ連日山麓の高感度カメラ¹⁾で観測され、4月2日未明には山頂の南約8kmの軽井沢測候所から肉眼でも確認された。

火山性地震及び微動は依然としてやや多い状態が続いており、地震が1日当たり71～95回、微動が0～3回観測された。

1) 気象庁及び国土交通省関東地方整備局利根川水系砂防事務所が山麓に設置。

● 三宅島 [熱・火山ガス・噴煙・地震・空振]

4月5日に上空から行った観測²⁾では、火口周辺及び火口内に大きな変化はなく、赤外熱映像装置³⁾による観測では、火口内の最高温度は110℃であった(前回は3月22日は87℃)。火山ガス観測では、二酸化硫黄の放出量は日量3,300～6,900トンで依然として多い状態であった。

白色噴煙は山頂火口より連続して噴出しており、最高で火口縁上約800mまで上がった。

4月3日17時～20時台にやや低周波の地震が増加した。また、20時52分に低周波地震が発生し、三宅村神着で震度1が観測され、地震に伴い弱い空振も観測された。その後地震は減少した。この間、噴煙活動等その他の観測データに特に変化はみられなかった。地震は3日に111回と多く観測されたが、その他の日は1日当たり0～15回と少ない状態であった。

2) 海上自衛隊の協力による

3) 赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を感知して温度分布を測定する測器であり、熱源から離れた場所から測定することができる利点があるが、大気その他の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合がある。

● 阿蘇山 [熱・土砂噴出・微動・地震] レベル2 (やや活発な火山活動)

31日に阿蘇山測候所が行った現地観測によると、中岳第一火口の状況は、湯だまりの色は灰色、量は約3割で、表面温度は70℃とやや高い状態であった(前期間は68℃)。湯だまりの中央部付近で約10m、その他数箇所ですら2～3mの高さの土砂噴出が観測された。

噴煙は白色で噴煙の高さの最高は火口縁上約300m(前期間は200m)であった。

孤立型微動の発生回数は998回で前期間(670回)より増加し、やや多い状態であった。火山性微動の発生はなかった(前期間もなし)。火山性地震の発生回数は456回で前期間(318回)より増加し、やや多い状態であった。

地殻変動等その他の観測データには特段の変化はなかった。

● 霧島山 [噴気] 御鉢 : レベル2 (やや活発な火山活動) ・ 新燃岳 : レベル1 (静穏な火山活動)

今期間、御鉢火口の噴気活動はやや活発で、4月2～3日に時々噴気が監視カメラで観測され、高さの最高は火口縁上約100mであった。監視カメラで噴気が観測されたのは3月14日以来であった。地震活動等その他の観測データに特に変化はなかった。

◇ 桜島 レベル2 (比較的静穏な噴火活動)

期間中、噴火はなかった(前期間もなし)。噴煙活動も低調で、鹿児島地方気象台(南岳の西南西約11km)で降灰は観測されなかった(前期間もなし)。

◇ 薩摩硫黄島 レベル2（やや活発な火山活動）

地震活動、噴煙活動等の観測データには特段の変化はなかった。

◆ 口永良部島 レベル2（やや活発な火山活動）

今期間の火山性地震の発生回数は9回で、前期間（46回）より減少し、少ない状態であった。火山性微動は、継続時間の短いものが時々発生し、期間中の回数は3回であった（前期間は3回）。監視カメラ（新岳の北西約4kmに設置）による観測では、今期間噴気は観測されなかった（前期間は30日に火口縁上約10mの噴気を観測）。

▲ 諏訪之瀬島 [噴火・微動] レベル3（小規模な噴火が発生）

噴火が4～6日に発生した。十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、4～6日に火山灰を含む噴煙が上がっているの確認された。また、監視カメラ⁴⁾による観測で、6日12時07分に火口縁上約700mまで上がり北西に流れる灰白色の噴煙が観測された。

火山性微動は4～6日に断続的に観測され、一時連続して観測された。

4) 御岳の北北東約25kmの中之島に設置。

表2 火山情報発表状況

火山名	情報の種類及び号数	発表日時	概要
浅間山	火山観測情報第93号 ↓（1日1回発表）	31日 16:00 ↓	前日及び当日00時～15時の活動状況（噴火はなし、噴煙・火映・鳴動・地震・微動・地殻変動の状況及び上空の風の予想）。レベルは3。
	火山観測情報第99号	6日 16:00	
三宅島	火山観測情報第177号 ↓（1日2回発表）	31日 09:30 ↓	前日15時～当日09時もしくは当日09～15時の活動状況、及び上空の風の予想。
	火山観測情報第190号	6日 16:30	
阿蘇山	火山観測情報第13号	1日 11:00	火山活動は引き続きやや活発（土砂噴出発生、湯だまりの表面温度高い、地震やや多い）。レベルは2。
口永良部島	火山観測情報第15号	1日 14:00	やや活発な火山活動継続。レベルは2。